

写真で見る日本山岳会の100年

Looking Back the One Hundred Year History



社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

ご挨拶

2005（平成17）年10月14日、日本山岳会は創立100周年を迎えました。まず、星霜の節目にあたり、本会・資料映像委員会が、かつて写し込まれた映像（写真）から100年の足跡を辿る小冊子、『写真で見る日本山岳会の100年』をまとめたものが本書です。

さて、「映像の世紀」といわれた20世紀。それらの映像は現在、フィルム・アーカイヴスとなって過去を現在に蘇らせています。それは映像（写真）のもつ記録性と資料性によるものです。そこで本冊子は、本会の所蔵する貴重な資料映像の中から山岳会の原点を探り、そして100年の伝統がどのように育まれてきたのかを、写真を通して再現しようというものです。

英国の宣教師ウォルター・ウェストンが、初めて日本アルプスに足を踏み入れたのは1889（明治22）年。翌年の夏から、飛騨山脈や赤石山脈に足跡をしるし、帰国後の1896（明治29）年、イギリスで『日本アルプス登山と探検』という書籍を出版しました。そこには、日本各地の風景、風俗、そして山の写真などが数多く掲載されています。また発刊当初の本会の機関誌『山岳』には、創立者でもある高野鷹蔵や武田久吉、あるいは草創期の志村烏嶺、河野齡蔵、辻本満丸らの写真が数多く掲載されています。それらは、往時の登山姿や装備、また山小屋などが写し込まれ、時代を語る資料として、かけがえのない本会の財産となっております。

また戦後、本会の目指したマナスルやエベレストで、その登頂時に撮った一枚の写真は、貴重な記録であると同時に、登頂した証明でもあり、見る人に深い感動を与えます。そのほか、本会が送り出したヒマラヤ巨峰群への登山記録でも、写真は大きな役割を果たしてきました。これらの写真は、本会の歴史を語るものであり、やがて資料となった時、過ぎし時代を蘇らせてくれるものと思います。

このように本書は、過去を探りながら、改めて私たちに日本山岳会創立100年の意義と伝統の持つ重みを認識させてくれるものと信じています。

2005（平成17）年10月15日

社団法人 日本山岳会
会 長 平 山 善 吉

Preface

The Japanese Alpine Club was founded on October 14, 1905 and this year, we proudly celebrate the centenary. This booklet, "Looking Back the One Hundred Year History of the Japanese Alpine Club", has been put together by the JAC Committee of Materials and Images in commemoration of marking centennial and it retraces footprints of our activities through the photographs. The twentieth century has been said as "a century of images", and these images in archives are bringing back the past to life with the documentation aspects they have. The photos in this booklet are from our precious archives and are intended to illustrate the fundamentals and the development of the 100-year tradition of the club.

Rev. Walter Weston, a British missionary, came to the Japanese Alps for the first time in 1889 and he had climbed "HIDA Mountains" and "AKAISHI Mountains" in the following years. He had published a book, "Mountaineering and Exploration in the Japanese Alps" in England in 1896 after he returned home. In this book, there were many photos of landscapes, customs and mountain sceneries of Japan. In "SANGAKU", the annual book of the club in the early days, there were many photos taken by Takazo TAKANO and Hisayoshi TAKEDA, the founding members of the club, and by Urei SHIMURA, Reizo KOONO and Mitsumaru TSUJIMOTO, the early members. These photos tell us the apparel, styles and equipment of mountaineering and mountain huts back in those days, and we treasure them today.

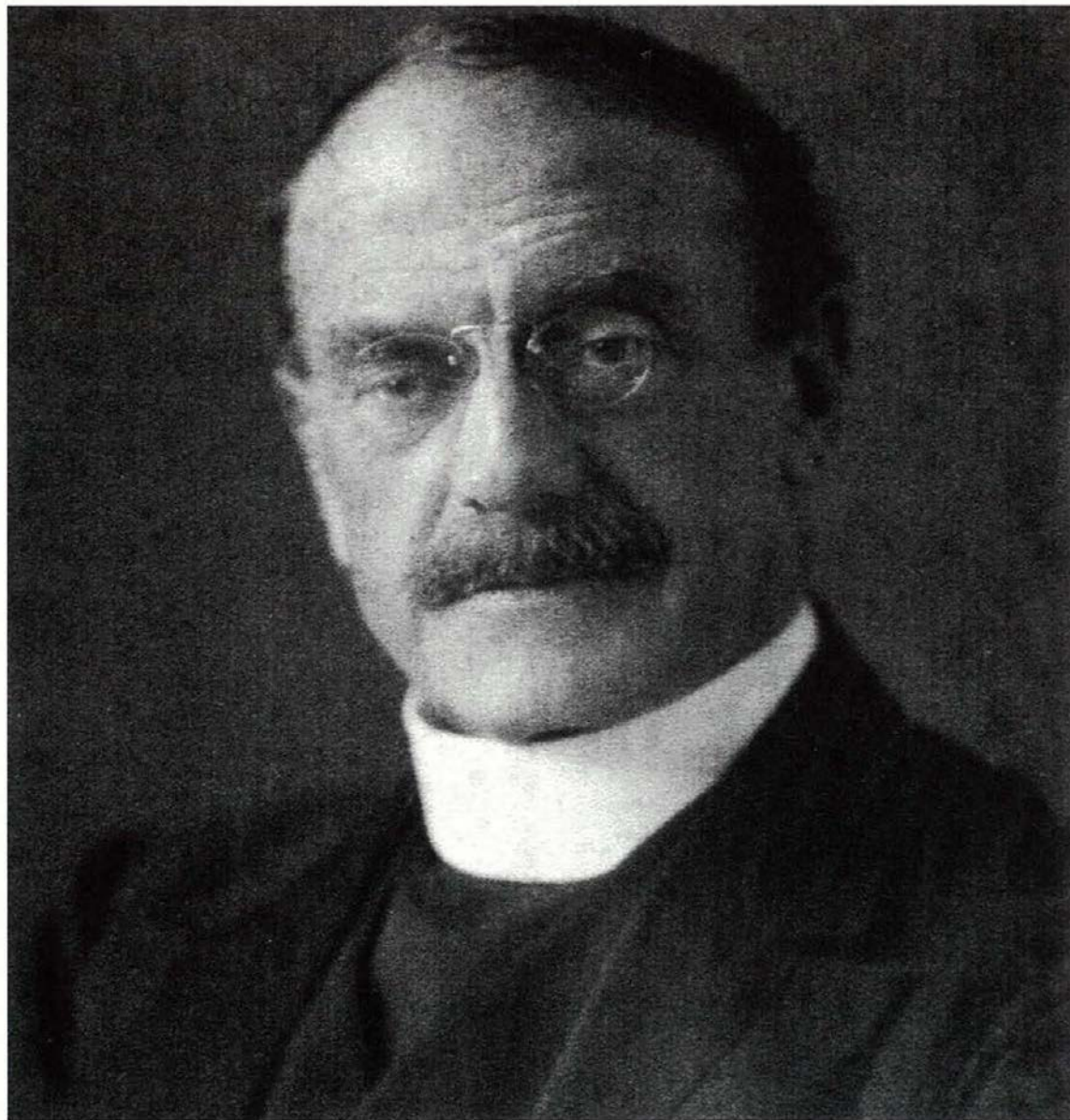
The photos taken at the summits of our expeditions to Manaslu and Mt.Everest are our precious records and proofs of our accomplishments and they are deeply moving to all of us. The photos of the expeditions to the Himalayan Giants also have played a key role as record. These photos captured in each period tell us about the club's history and in due time, these will become an important visual materials bringing the past to present. Therefore, we hope we can share with you, the meaning of the 100th anniversary and an importance of the tradition by looking back at the history of the club through these photos.

Zenkichi Hirayama

President

The Japanese Alpine Club

October 15, 2005



英国の宣教師、
ウォルター・ウェストン
Rev. Walter Weston,
a British missionary

近代登山の夜明け Dawn of Modern Mountaineering

日本の山登りは、古くは主に宗教としての登山であった。山登りそのものを楽しむようになったのは、明治の半ば以降のことである。こうした近代的な登山の思想を最初に紹介したのは、思想家の志賀重昂であった。彼は1894(明治27)年、日本の風景を美学として謳い上げた『日本風景論』を出版、その付録に「登山の気風を興作すべし」と呼びかけ、登山の啓蒙につとめた。

1888(明治21)年、英国の宣教師ウォルター・ウェストンが初来日する。

以来1915(大正4)年まで3回来日したが、第1回目の滞在中には飛騨山脈、赤石山脈を踏破、その記録を1896(明治29)年、ロンドンで『日本アルプス 登山と探検』に著わし、出版した。その著書を通して小島烏水は、W・ウェストン師と知り合いになる。W・ウェストン師は、日本にもイギリスのアルパイン・クラブ(1857年創立)のような山の会をつくることを小島他に強く勧める。そして後に、日本山岳会の創立に至るのである。



W・ウェストンが使用した登山用具
Mountaineering equipment used by Rev. W. Weston



1913(大正2)年8月、上高地、河童橋でのウェストン夫婦とガイドの上條嘉門次
Mr. and Mrs. Weston and Kamonji KAMIJYO, a guide, at Kappa-Bashi bridge in Kamikochi in 1913



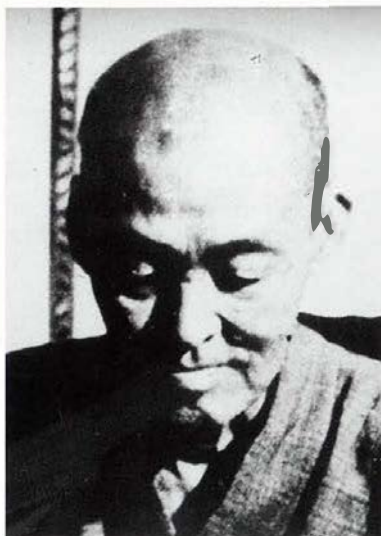
日本における近代登山の啓蒙に努めた志賀重昂
Shigetaka SHIGA, made efforts to enlighten Japanese
modern mountaineering

1894(明治27)年発行の『日本風景論』
"NIHON FUUKEI-RON", published in 1894





1906 (明治39) 年創刊の『山岳』第1年第1号の表紙。初期のころは年3回発行された
The first issue of "SANGAKU", (mountain) in 1906, the Japanese Alpine Journal



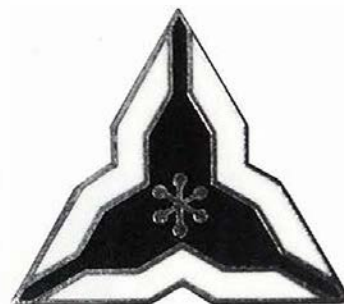
初代会長、小島烏水 (久太) (1873-1948)
Usui KOJIMA, the first president (1873-1948)



6代目会長の武田久吉 (1883-1972)
Hisayoshi TAKEDA, the sixth president (1883-1972)



2代目会長、越後の高頭仁兵衛 (1877-1958)
Nihei TAKATO, the second president (1877-1958)



創立当時のバッジ
Club's badge at the days of the foundation

日本山岳会の創立 Foundation of the Japanese Alpine Club

ウォルター・ウェストン師と思想家の志賀重昂の示唆と影響により、1905 (明治38) 年10月14日、東京・飯田河岸の富士見楼という料亭で山岳会創立の最終打ち合わせが行なわれた。この日をもって「日本山岳会の設立の日」とされている。

創立当時の中心となった人たちは、小島烏水 (久太)、越後の高頭仁兵衛、日本博物学同志会の武田久吉、山川 (河田) 黙、梅沢親光、高野鷹蔵、山草会の城数馬らの7人で、彼らが発起人となって山岳会が発足し

た。翌年の1906 (明治39) 年には、機関誌『山岳』創刊号 (第1年) が発刊された。なお、創立当時の会員数は393人。旗揚げたものの、どのくらいの入会者があるか懸念されていたが、本会の最初の会員名簿、機関誌『山岳』第2年第1号の付録によると、1907 (明治40) 年2月20日現在で、418人の名前が載っている。当初の発起人らの心配は杞憂だったといえる。1909 (明治42) 年6月1日に、「山岳会」の名称を「日本山岳会」と改め、会則を制定した。



山川(河田)繁 (1886-1966)
Shizuka YAMAKAWA (KAWADA) (1886-1966)



梅沢親光 (1885-1926)
Chikamitsu UMEZAWA (1885-1926)



高野鷹蔵 (1884-1964)
Takazo TAKANO (1884-1964)



山草会の城数馬 (1864-1924)
Kazuma JYO (1864-1924)



1912 (明治45) 年、ウォルター・ウェストン招待会で。右から中村清太郎、三枝威之介、辻本満丸、加賀正太郎、2人おいて小島烏水、ウェストン、1人おいてウェストン夫人、1人おいて岡野金次郎、1人おいて辻村伊助、島山悌成、高頭仁兵衛

Group portrait at Rev. W. Weston's Reception in 1912. From right: Seitaro NAKAMURA, Takenosuke SAEGUSA, Mitsumaru TSUJIMOTO, Shotaro KAGA, skip 2, Usui KOJIMA, Rev. W. Weston, skip 1, Mrs. W. Weston, skip 1, Kinjiro OKANO, skip 1, Isuke TSUJIMURA, Yasunari TORIYAMA, Nihei TAKATO



1909 (明治42) 年 7 月 27 日、赤石岳
山頂での記念写真。前列左端が高頭
仁兵衛、その右が小島烏水、右端が
三枝威之介、後列左から 2 人目が中
村清太郎

At the summit of Mt. Akaishi in July
27, 1909. From left in the front
row: Nihei TAKATO, Usui KO-
JIMA, right end Takenosuke SAE-
GUSA The rear row: second
from left Seiraro NAKAMURA

日本アルプス登山探検時代 Era of Exploration of the Japanese Alps

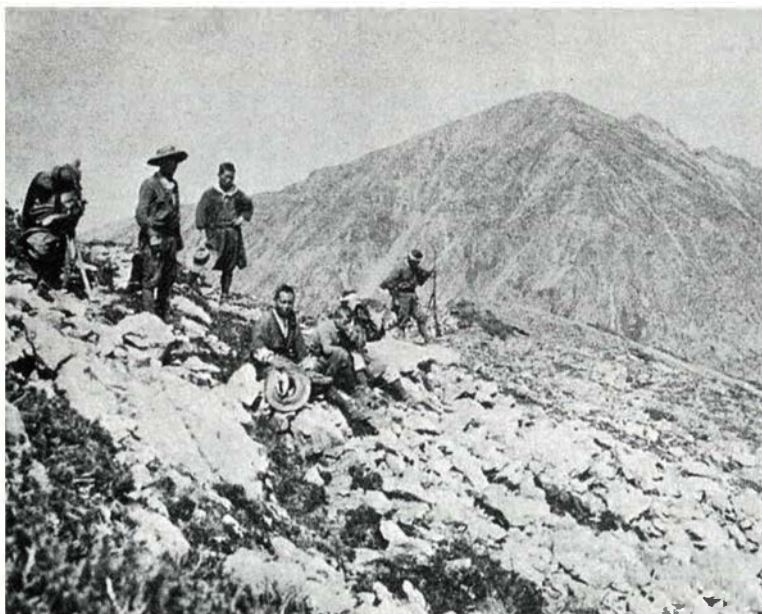
山岳会が創立される前、明治の半ば、小島烏水や岡野金次郎は丹沢山塊や乗鞍岳に、また木暮理太郎は針ノ木越えで立山に入り、後に武田久吉や河田黙らは八ヶ岳に登っている。山岳会が旗揚げされると草創期の会員たちは、新たに飛騨山脈や赤石山脈などに頻繁に挑み、各山岳に足跡を残した。いわば日本アルプスの登山探検時代と言ってよいだろう。

彼らの登山の記録や紀行文は、後に名著となって多くの岳人たちに読まれ、また日本登山史上にも貴重な資料となっている。

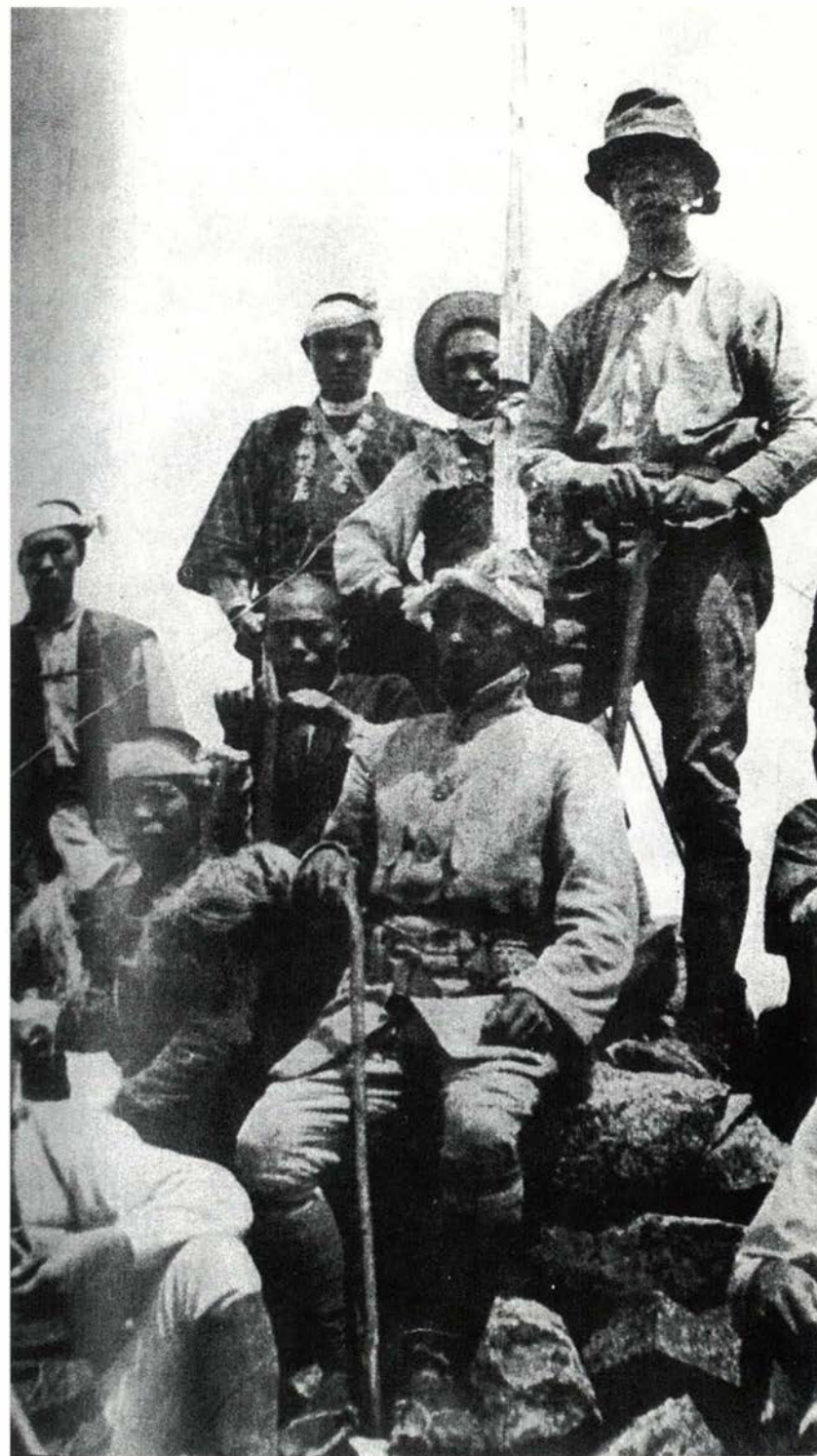
山岳会創立後の数年の主な山行だけでも、1908 (明治41) 年 7 月、小島烏水、高頭仁兵衛らによる南アルプス・農鳥岳、間ノ岳、北岳、鳳凰山登山。8 月、榎谷徹蔵が、燕岳から大天井を経て蝶ヶ岳まで縦走。1909 (明治42) 年 7 月、小島烏水、高頭仁兵衛らは、西山温泉から悪沢岳、荒川岳、赤石岳縦走。辻村伊助らが槍ヶ岳から鷲羽岳、黒岳、烏帽子岳まで縦走。辻本満丸が有峰より薬師岳、上ノ岳。石崎光瑤、河合良成らが長次郎谷より劔岳に登頂した。



1909 (明治42) 年7月、石崎光瑤らは、ガイドの宇治長次郎らの案内で駒岳に初登頂する
In July, 1909, Koyo ISHIZAKI guided by Chojiro UJI climbed Mt. Tsurugi for the first time



1909 (明治42) 年7月、三枝威之介、高頭仁兵衛、小島烏水、高野鷹蔵、中村清太郎らは、西山温泉から南アルプスの悪沢岳、荒川岳、赤石岳縦走を行なう
In July, 1909, Takenosuke SAEGUSA, Nihei TAKATO, Usui KOJIMA, Takazo TAKANO, Seiraro NAKAMURA and traversed the Japanese Southern Alps (AKAISHI Mountains)



1913 (大正2) 年7月、近藤茂吉は佐伯平蔵、宇治長次郎を伴って長次郎谷から駒岳山頂 (第2登) を経て別山尾根を初下降した
In July, 1913, Shigekichi KONDO guided by Heizo SAEKI and Chojiro UJI climbed Mt. Tsurugi for the second time through Chojiro-Dani valley and descended through Betsuzan-One ridge for the first time



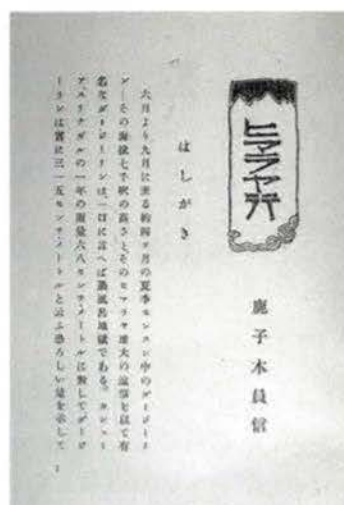
辻村伊助は、植物研究を兼ねてヨーロッパ・アルプスに滞在、1914(大正3)年の夏グロス・シュレックホルンに登り、下山途中雪崩に遭遇して入院する。療養中、スイス人のローザと出会い結婚する。写真は辻村伊助・ローザ夫人と子供たち。書物はスイスアルプスを紹介した辻村伊助著『スイス日記』(1930年 梓書房刊)など

During a stay in the Alps for a study of botany, Isuke TSUJIMURA climbed Gross Schreckhorn in 1914. At descending, he was carried away by a snowslide and hospitalized. He met Rosa of the Swiss and got married.
Photo: Isuke TSUJIMURA and his family (left) and his book, "SWISS-NIKKI"



慶大山岳部創立に力をかけた鹿子木員信は、スイスアルプスを歩いた後、1918(大正7)年にインドに渡り、日本人として初めてヒマラヤを歩く。著書に『アルペン行』(1914年刊)や『ヒマラヤ行』(1920年刊)がある

Kazunobu KANOKOGI, the first Japanese trekked Himalayas in 1918
His book, "HIMALAYA-KOU" (A journey into the Himalayas) published in 1920



1910(明治43)年、日本人として初めてユングフラウに登った加賀正太郎(左)とガイドのヘスラー

Shotaro KAGA (left) and a guide, the first Japanese climbed Jungfrau in 1910



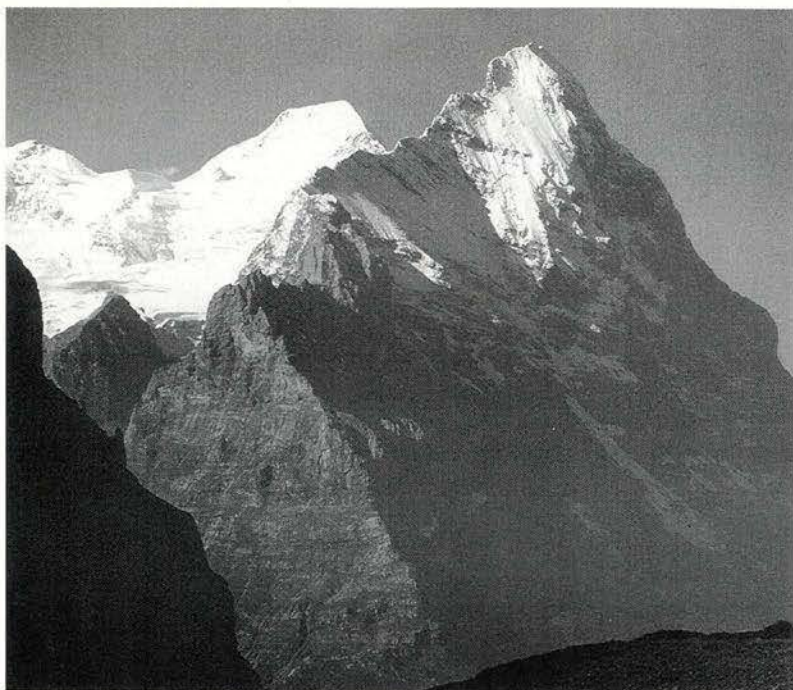
初期の海外登山と会員の活躍 Overseas Mountaineering in the Early Days and Activities of Members

日本山岳会の創立時から大正初期にかけて、日本から遠く離れた雪と氷と岩の世界、ヨーロッパ・アルプスに遊んだ山好きの日本人がいた。加賀正太郎、鹿子木員信、辻村伊助らの3人で、彼らの書いた紀行文は、スイスの自然を日本に紹介し、また山好きな日本人に多大な影響を与えた。

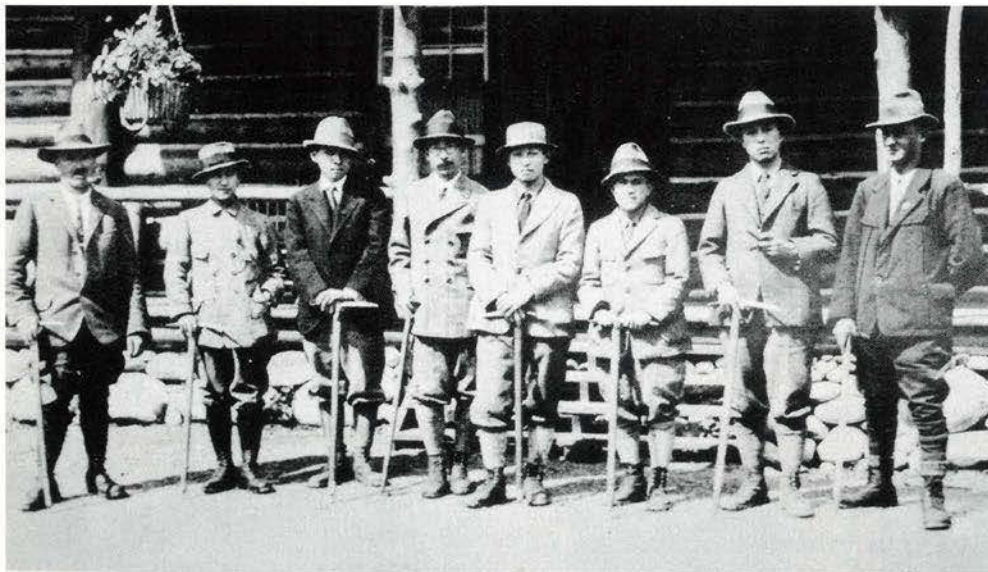
1920年代に入ると、日本の登山界に新しい時代がやってきた。「雪と岩」の時代である。1921(大正10)年9月10日午後7時15分、日本の登山家がついにアイガーの絶頂に立ったのである。横有恒のアイガー東山稜初登

攀である。当時、アイガーの東山稜は、アルプス中の最難といわれ、日本人による初登攀の快挙は、日本の登山界に新しい時代を拓ききっかけとなった。さらに横有恒は、三田幸夫、橋本静一、早川種三、岡部長量、波多野正信らとともに、1925(大正14)年7月、カナディアン・ロッキーのアルバート峰(3619メートル)に挑み、初登頂に成功した。

こうして「スキー登山」と「岩登り」を基底とする近代アルピニズムは、清新の息吹を充満させながら登場したのであった。



グローセ・シャイデック付近から望むアイガー東山稜。右の写真は、1921（大正10）年9月10日、アイガー東山稜初登頂を果たし、地元の人たちやガイドらと喜び合う横有恒（中央）
Eiger East-Ridge, a view from Grosse Scheidegg. Yukio MAKI (center riding on the shoulders) climbed Eiger through the East-Ridge for the first ascent in 1921 (above right)



1925（大正14）年、横ら6人は、カナディアン・ロッキーの未踏峰、アルバータ峰の初登頂に成功した。左2人目から横、波多野正信、橋本静一、岡部長量、三田幸夫、早川種三の諸氏。右の写真は、アルバータ峰の全容と、「東京日々新聞」の記事
Yuko MAKI and other members climbed Mt. Alberta for the first time in 1925. Second from left: Y. MAKI, Masanobu HATANO, Seiichi HASHIMOTO, Choryo OKABE, Yukio MITA and Tanezo HAYAKAWA. Full view of Mt. Alberta in the Rocky Mountain Canada (above right). A news in "Tokyo NICHU-NICHU"

横氏一行から突如快報
アルバータ山頂を踏破す
前人未踏の峰頭に一夜を明かして
記念の氷斧を残して下山
茲に本社の世界的事業たる
カナディアン・ロッキー探検成功

ワシントン・ポスト（毎日）このカナディアン・ロッキー探検隊一行が、アルバータ山頂を踏破したことは、登山界に大いに驚きと感動を與へた。この山は、前人未踏の峰頭であり、その頂上には、氷斧が残り、登山者たちの足跡が刻まれている。この山は、カナディアン・ロッキーの最も雄偉な山であり、その頂上には、氷斧が残り、登山者たちの足跡が刻まれている。この山は、カナディアン・ロッキーの最も雄偉な山であり、その頂上には、氷斧が残り、登山者たちの足跡が刻まれている。

七月廿一日我々は、激流と戦ひ、時に峻険なる岩石と奮闘し、登山する十六時間の後、遂に當初の目的たるアルバータ峰の頂上に到達し、記念として創川侯爵の氷斧を残して、その記念すべき一夜を峰頭に過ごし、翌廿二日朝に歸つたが下山には十四時間を要した。我々一行の意大いに振興に勝つてゐる。



1926（大正15）年8月、アルプスの登攀を楽しんだ殿下。前列左から榎有恒、秩父宮殿下、ウェストン師、渡辺御用掛
 Prince CHICHIBU in the Alps in August, 1926. From left in front row: Yuko MAKI, Prince CHICHIBU, Rev. W. Weston, WATANABE

山の宮様と日本山岳会 Mountaineering of His Highness Prince CHICHIBU and the Club

「山の宮様」と親しまれた秩父宮様は、たいそう山がお好きだった。スキーは1921（大正10）年から、登山は1923（大正12）年の夏、燕岳、槍ヶ岳縦走から始まった。

1924（大正13）年5月には、日本山岳会会員の榎有恒、三田幸夫、大島亮吉らの案内で、残雪の立山を歩いている。1925（大正14）年5月、海外視察のためヨーロッパに渡り、アルプスで本格的な山登りをされた。また1926（大正15）年8月、榎有恒、松方三郎らと、グリンデルワルトとツェル

マットを中心にヴェッターホルン、マッターホルンなどスイスアルプス10余座を登っている。帰国後の1927（昭和2）年夏には、榎有恒、早川種三らとともに北アルプスの槍・穂高などを縦走している。

1928（昭和3）年、英国山岳会名誉会員に推挙され、翌年発行の『アルパイン・ジャーナル』第41巻に「日本アルプスの8日間」という原稿を書かれている。また、多くの山やスポーツに関する随想を発表された。

殿下の登山は、実に第2次世界大戦が始まるまで続いた。



秩父宮様ご愛用の登山用具
Prince CHICHIBU's favorite mountaineering equipment



スイスアルプスの登攀を楽しむ殿下。中央が秩父宮殿下
Climbing in the Swiss Alps. Center: Prince CHICHIBU



スイスアルプスで、左から松方三郎、秩父宮殿下、松本重治
Climbing in the Swiss Alps. From left: Saburo MATSUKATA, Prince CHICHIBU, Shigeharu MATSUMOTO



1924 (大正13)年5月、立山にて。左から秩父宮殿下、三田幸夫、横有恒、大島亮吉
Climbing in Mt. Tateyama in May, 1924. From left: Prince CHICHIBU, Yukio MITA, Yuko MAKI, Ryokichi OOSHIMA

黒田初子 (1903~2002)。夫の正夫と山行をともにし、本格的な登山を楽しむ。
写真は1927(昭和2)年ごろ、劔岳の岩場で懸垂下降する黒田初子
Hatsuko KURODA (1903-2002). Enjoyed climbing with her husband, Masao.
Photo: Rock climbing Mt.Tsurugi in 1927



女性で初めて劔岳に登った
竹内ヒサ (1898~1934)。
写真は、1920(大正9)年
7月13日、爺ヶ岳にて
Hisa TAKEUCHI (1898-
1934), the first woman
climbed Mt.Tsurugi
Photo: at JIL-GA-TAKE
(Mt. Jii) on July13, 1920



早くから女性登山家と呼ばれた村井米子 (1901~1986)。写真は1970(昭和45)年、山形蔵王でスキーを楽しむ
Yoneko MURAI (1901-1986),
being called "women's climber" early
in her life. Photo: Skiing in Yamagata-
Zao in 1970 (below)



女性登山のパイオニアたち Pioneers of Women's Mountaineering

日本山岳会の初めての女性会員は、山岳会創立の翌1906(明治39)年3月に入会した野口幽香(会員ナンバー134)とされ、『山岳』第1年第3号で、彼女は岩手山に登った紀行文「初登山」を寄せている。

大正時代に入ると女子学校の登山が盛んになり、山岳会のメンバーも活躍するようになった。竹内ヒサは、夫鳳次郎とともに白馬岳、槍ヶ岳などに登山。1920(大正9)年7月には、女性として劔岳初登頂。村井米子は、1929(昭和4)年、冬富士に登り、以来全国の山に登った。黒田初子は、登山家であった夫

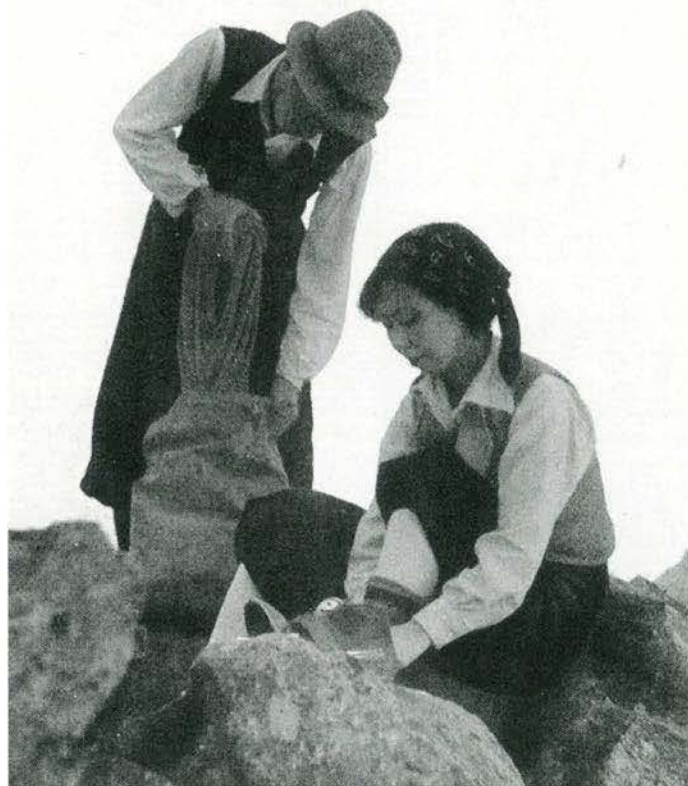
正夫とともに、多くの山に登り、1931(昭和6)年元旦に、女性として初めて厳冬の槍ヶ岳に登っている。中村(佐藤)テルは、1927(昭和2)年、積雪期の富士山に登り、後にYWCA山岳会を創立。今井喜美子の初登山は1921(大正10)年の筑波山。今井雄二と結婚以来、夫婦で穂高岳を中心に岩登りやスキー登山を楽しんだ。川森佐智子は、早くから岩登りに親しみ、1936(昭和11)年、前穂北尾根四峰を登攀。坂倉登喜子は、1920年代(大正半ば)から山歩きを始め、1955(昭和30)年、エーデルワイスクラブを創立。生涯現役で山を歩いている。



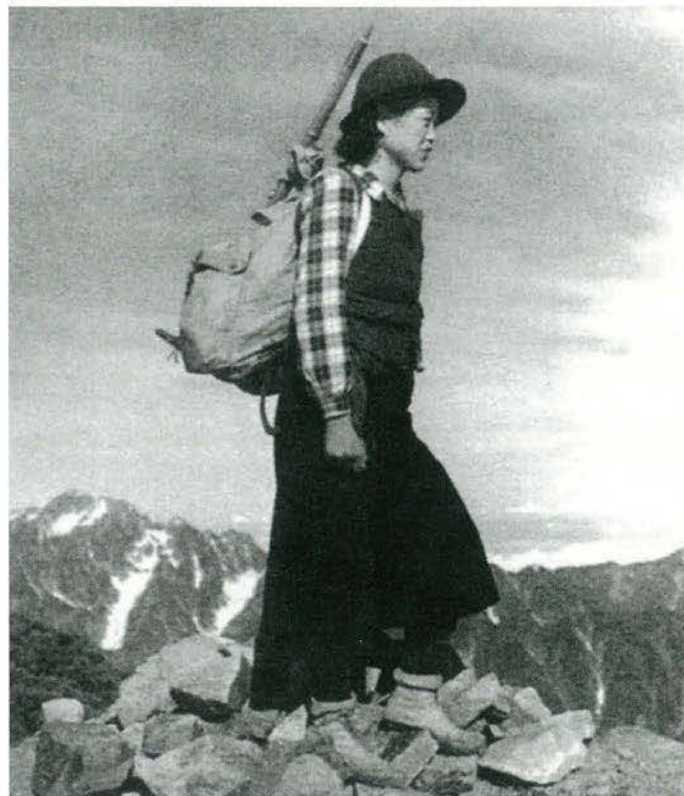
1961(昭和36)年にニュージーランド遠征隊長もつとめた中村(佐藤)テル(1904~)
Teru NAKAMURA (SATO) (1904-). Acted the leader of the expedition to New Zealand in 1961



今井喜美子(1905~)は、主に穂高岳を中心に歩き、夫婦で登山とスキーを楽しんだ。志賀高原で
Kimiko IMAI (1905-), mainly climbed Mt. Hotaka. Enjoyed climbing and skiing with her husband



穂高岳で岩登りの指導を受ける川森佐智子(右,1907~1988)
Sachiko KAWAMORI (1907-1988). Rock climbing in Mt.Hotaka (right)



1949(昭和24)年夏、鹿島槍ヶ岳山頂の坂倉登喜子(1910~)
Tokiko SAKAKURA (1910-). At the summit of Mt.Kashimayari in the summer 1949



1936（昭和11）年10月5日午後2時55分、ナンダ・コート頂上に立つ。感極まって誰も言葉もなかった。右から湯浅、山県、浜野、アンツェリン、座っているのが堀田隊長
The first Japanese on the summit of the Himalayas, Nanda Kot on October 5, 1936. From right: YUASA, YAMAGATA, HAMANO. Sitting in front: HOTTA, the leader

日本人初のヒマラヤ The First Japanese Expedition to the Himalayas

昭和初期からおおよそ10年間、大学山岳部の登山活動には目覚ましいものがあり、彼らによって雪と岩に新しいルートが開拓された。とくに立教大学山岳部の堀田弥一は、1931（昭和6）年ごろ、日本山岳会の小集会で長谷川伝次郎の「カシミールの山旅」や松方三郎や浦松佐美太郎の「カンチェンジュンガの試登について」の講演を聞き、心を大きく動かしたという。以来、何度かヒマラヤ遠征の計画が持ち上がり、一方では仲間たちの登山技術や力量、また情熱も盛り上がっていった。

1936（昭和11）年、ヒマラヤ行はいよいよ具体化する。目的の山は、ガルワール・ヒマラヤのナンダ・コート。9月2日にラワン谷の4570メートルにベースキャンプを設営、北東稜をルートにして、前進キャンプを4つ出した。そして10月5日、隊長の堀田弥一と山県一雄、湯浅巖、浜野正男、竹節作太の全隊員が、ナンダ・コートの初登頂に成功する。

日本のヒマラヤ登山の端緒を切り拓くものとして、大きな成果が得られたナンダ・コート登頂であった。



ナンダ・コート山頂を目指して北東稜を登る隊員
Members heading for the summit of Nanda Kot



アルモラ・デプティ・コミッショナーの庭で、左から竹節、湯浅、長官、夫人、堀田、山県
From left: TAKEBUSHI, YUASA, Mr. and Mrs. Commissioner, HOTTA and YAMAGATA



ナンダ・コートを背にベースキャンプで。中列左から山県、湯浅、堀田、浜野、その右後ろ、竹節
At the base camp with Nanda Kot in the background. From left in middle row: YAMAGATA, YUASA, HOTTA, HAMANO, and one right in back, TAKEBUSHI



1967 (昭和42) 年 9 月、「向井ビル」移転の時のオープニングパーティ。左は田部重治、右は近藤茂吉
Opening reception in the club room at MUKAI Bldg. in September, 1967 Jyuji TANABE (left) and Shigekichi KONDO (right)



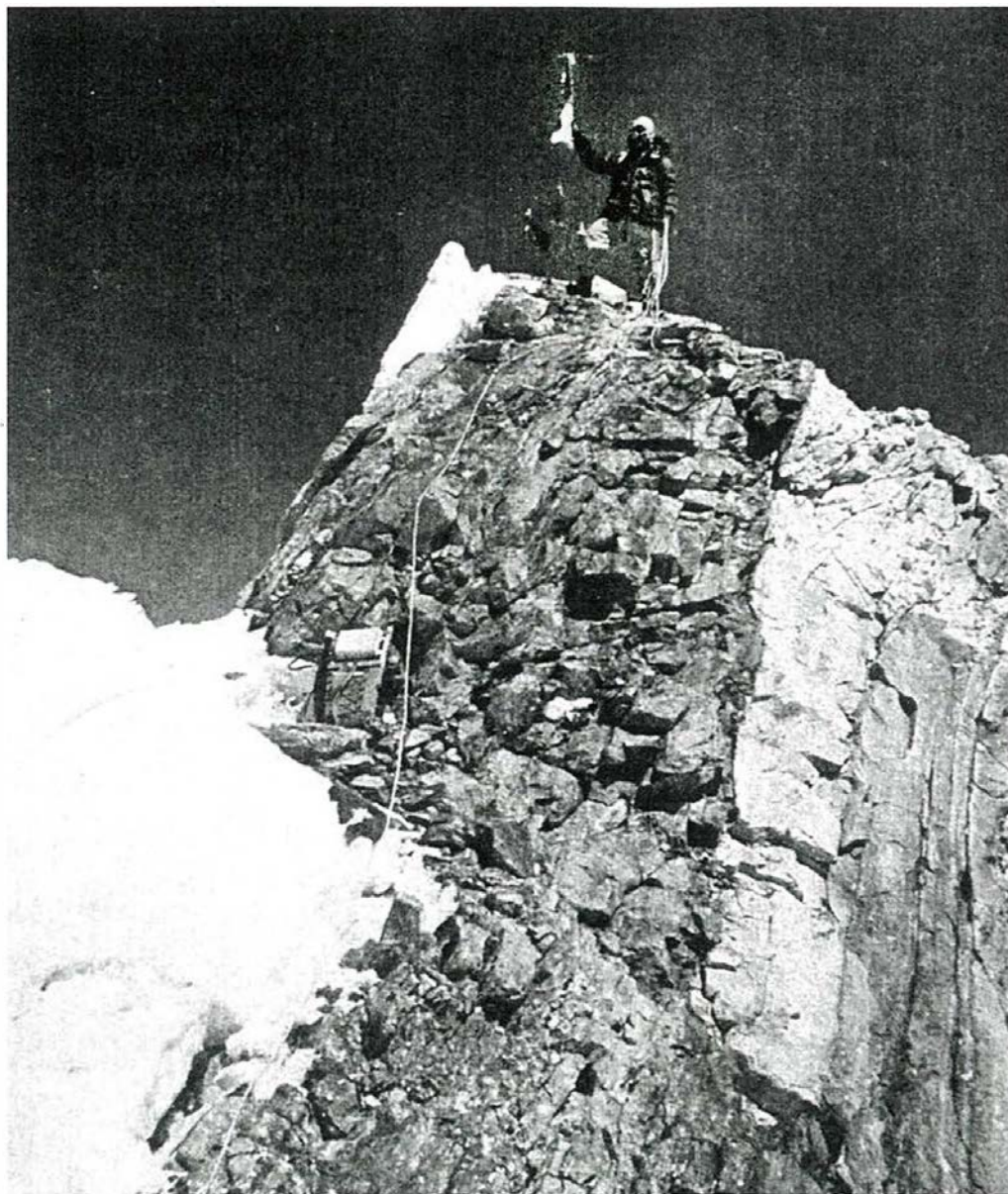
1967 (昭和42) 年、神田錦町の「向井ビル」
MUKAI Bldg. in Kanda in 1967



1973 (昭和48) 年、文京区湯島の「さくらビル」の外観
SAKURA Bldg. in Yushima in 1973



念願かなって自前のルームが持てたのは、1978 (昭和53) 年 1 月。現在の千代田区四番町の「サンビューハイツ四番町」
Inside of the current own club room at Sun-View Heights. Moved-in in January 1978



「もうこれ以上何も見えない。頂上だ」時に1956(昭和31)年5月9日午後12時30分。感動の瞬間である。写真は頂上に立つガルツェン

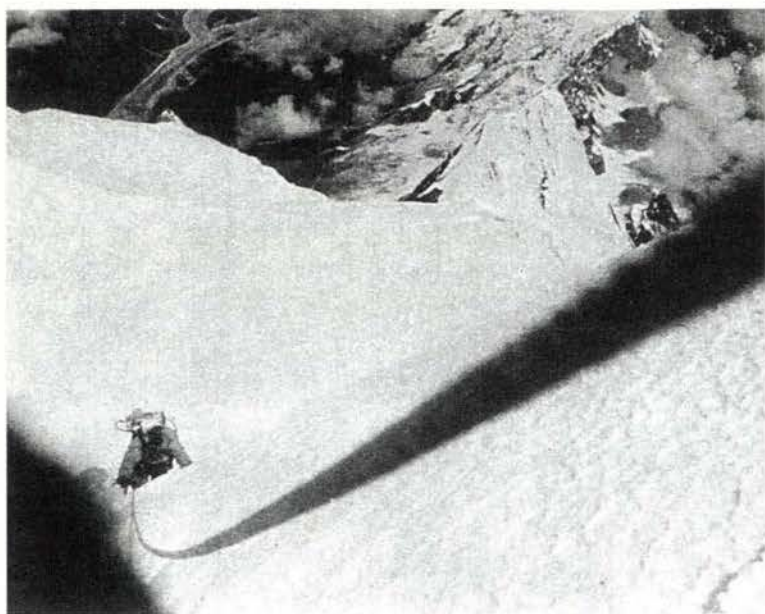
Sherpa Gyaltsen at the top of Manaslu on May 9, 1956 at 12:30, an impressive moment

マナスル初登頂 The First Ascent of Manaslu

第2次世界大戦が終わると、1950(昭和25)年、フランス隊は、いち早くアンナプルナ主峰の初登頂に成功した。いよいよヒマラヤ8000メートル峰登山の幕開けである。1953(昭和28)年、世界の最高峰エベレストはイギリス隊によって初登頂され、8000メートル峰も続々と初登頂されるようになった。

そこで日本隊が標的にしたのは、8000メートル峰の未踏峰、中部ネパールのマナスルであった。まだ戦後の復興途上にあった日本だが、1952(昭和27)年3月にヒマラヤ委員会(榎有恒委員長)を発足させて、活動を開始した。

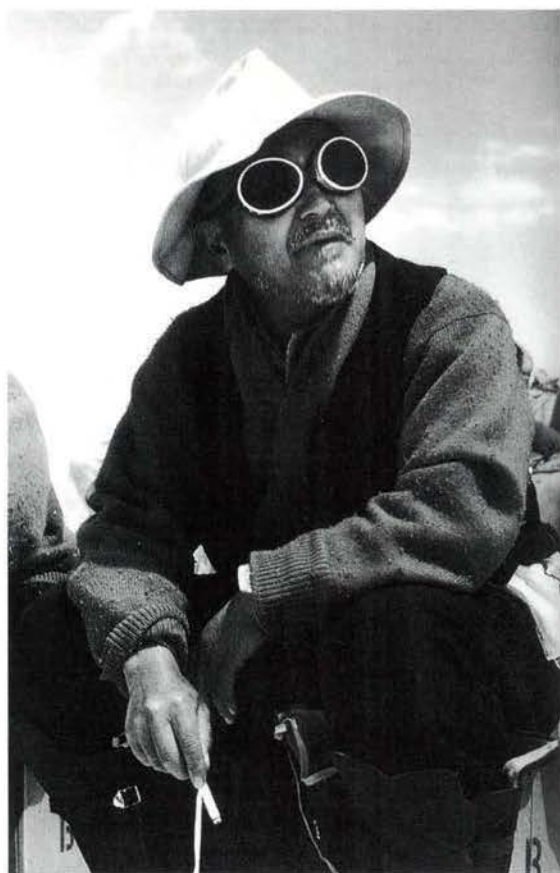
1953(昭和28)年に第1次登山隊(三田幸夫隊長)を派遣、7750メートルを最高到達点として撤退。翌1954(昭和29)年に第2次登山隊(堀田弥一隊長)を派遣、しかし、サマ集落住民の反対にあい、失敗。そして1956(昭和31)年2月、第3次登山隊(榎有恒隊長)が出発し、5月9日、今西寿男、ギャルツェンの2人が初登頂に成功した。こうして日本山岳会マナスル登山隊は、さまざまな障害を乗り越え、第3次隊を切り札として初登頂に成功する。日本の登山界にとって、ひとつの時代を画した朗報であった。



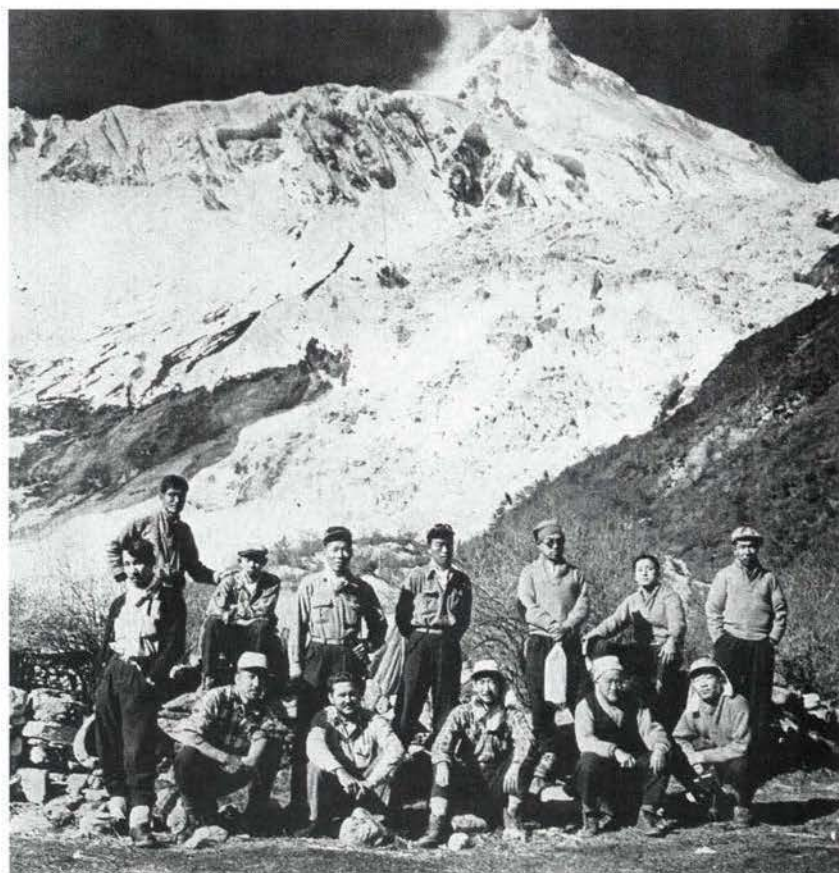
頂上を目指して雪稜を登攀する隊員
Climbing up a snow ridge to the summit



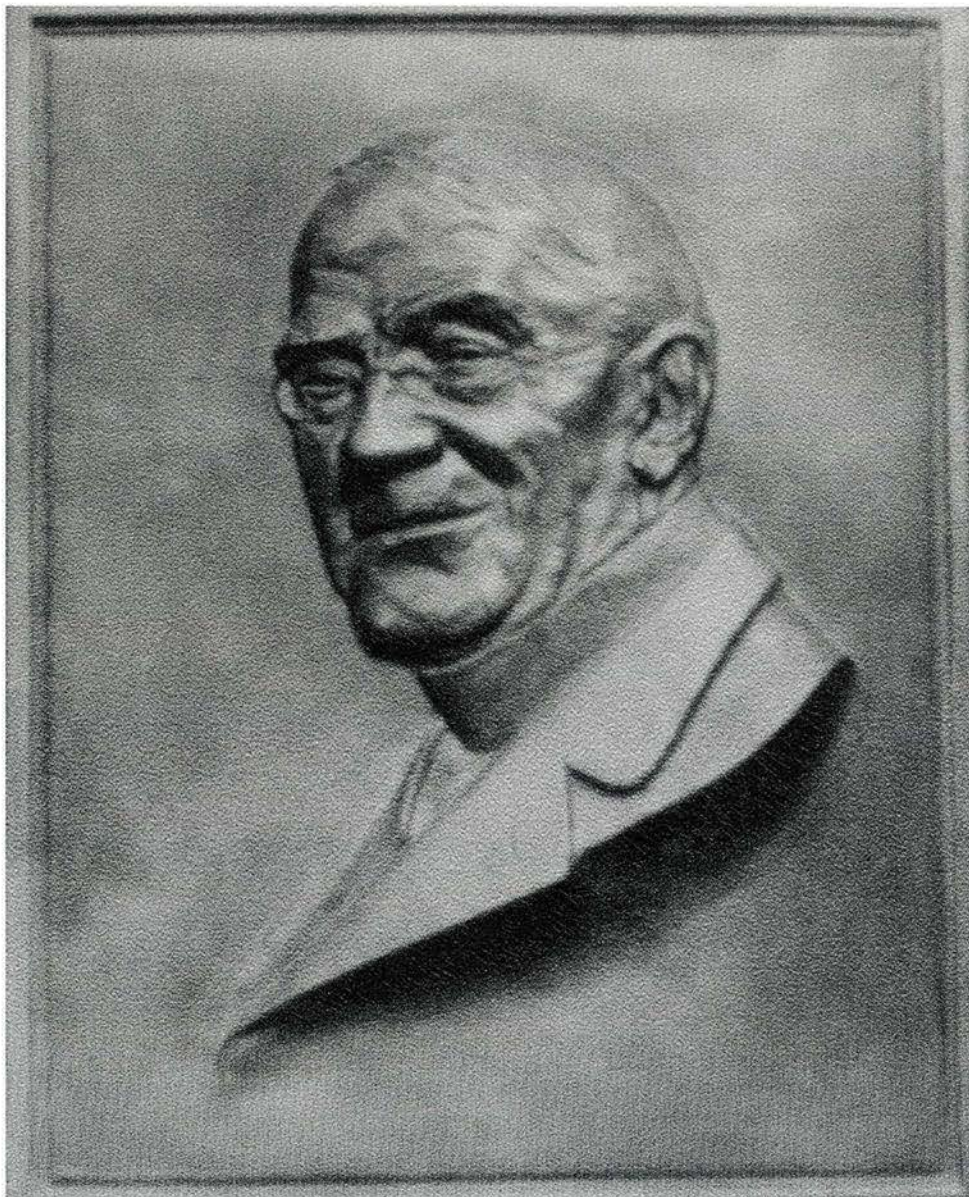
登頂の喜びに握手を交わす今西隊員（右から3人目）とガルツェン
IMANISHI (third from right) shaking hands with Gyaltsen



第2キャンプで、総指揮をとる横有恒隊長
Yuko MAKI, the leader of the expedition at C2



マナスルを背後に、念願の登頂を果たした第3次隊の隊員。前列右から2人目が横隊長
Members of the third expedition after successfully reached the summit with Manaslu in the background



現在のウェストンのレリーフ。1965 (昭和40) 年、佐藤久一郎氏によって改作された円盤型の銅版碑
The current portrait bust of Rev. W. Weston re-made by Kyuichiro SATO in 1965

取り外される前の角形のウェストンのレリーフ
The old portrait bust of Rev. W. Weston before dismantled in 1942 (left)

上高地の山岳研究所とウェストン祭 “SANGAKU-KENKYUSHO” in Kamikochi and the Weston's Festival

現在、会員の唯一の憩いの場である上高地山岳研究所は、1961 (昭和36) 年、神河内山荘として開設され、1973 (昭和48) 年に改築された。そして1993 (平成5) 年には、日本自転車振興会をはじめ、各企業、団体、多くの会員の寄付を得て、地下1階、地上2階に改築された。現在、会員相互の交流の場として、また研究会やグループ活動など多くの会員に利用されてる。

英国の宣教師ウォルター・ウェストンの功績を称えて、師の記念レリーフ

が上高地梓川畔の岩に最初に取り付けられたのは、1937 (昭和12) 年8月のことである。それからわずか5年余、戦争の足音が上高地まで忍び寄ってきた1942 (昭和17) 年、取りはずされる運命にあった。敵国の宣教師だからということでもあり、鉄の確保のためでもあった。

ウェストン碑が、戦後復元されたのは1947 (昭和22) 年6月14日。これにちなんで「ウェストン祭」が開催されるようになり、これを第1回として現在まで59回続けられている。日本山岳会の恒例の行事となった。



毎年6月の第1日曜日に上高地で開催される「ウェストン祭」。写真は、山の歌を歌うエーデルワイスクラブの会員
The Weston's Festival being held on the first Sunday of June every year

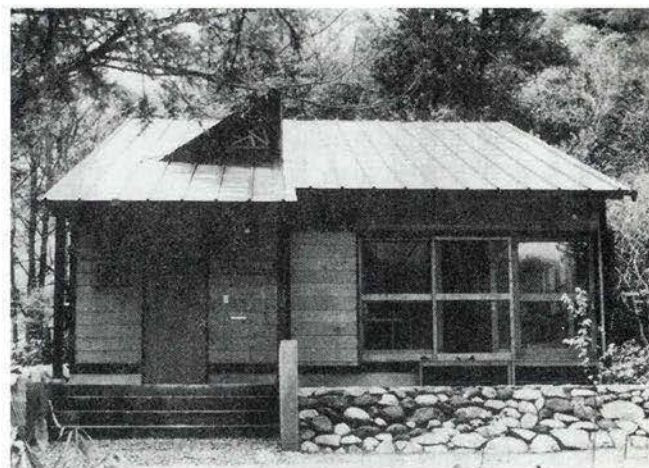


会の先輩と交流を深め、伝統を育む「有志閑談会」。日本山岳会の正式な行事ではないが、毎年6月、会員の有志によって開かれている。写真は、1953(昭和28)年6月14日に開かれた第1回。出席者は、冠松次郎、田部重治、松方三郎、武田久吉、高野鷹蔵、日高信六郎、村井米子ら(順不同)。山岳会黎明期時代に活躍したそうそうたるメンバーであった

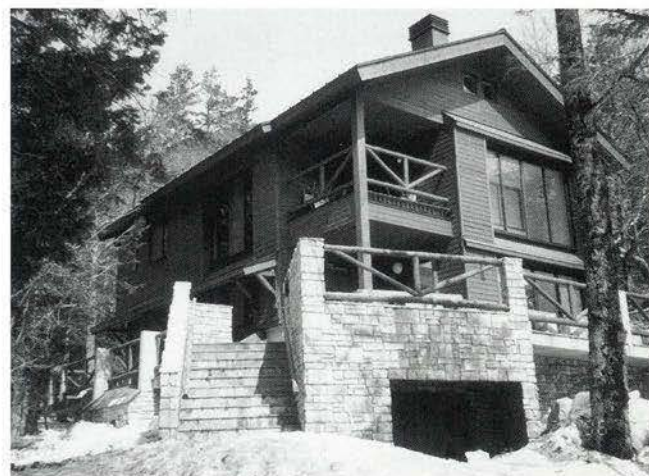
"YUSHI-KANDANKAI", a chat meeting with senior members. Photo: At the first meeting on June 14, 1953



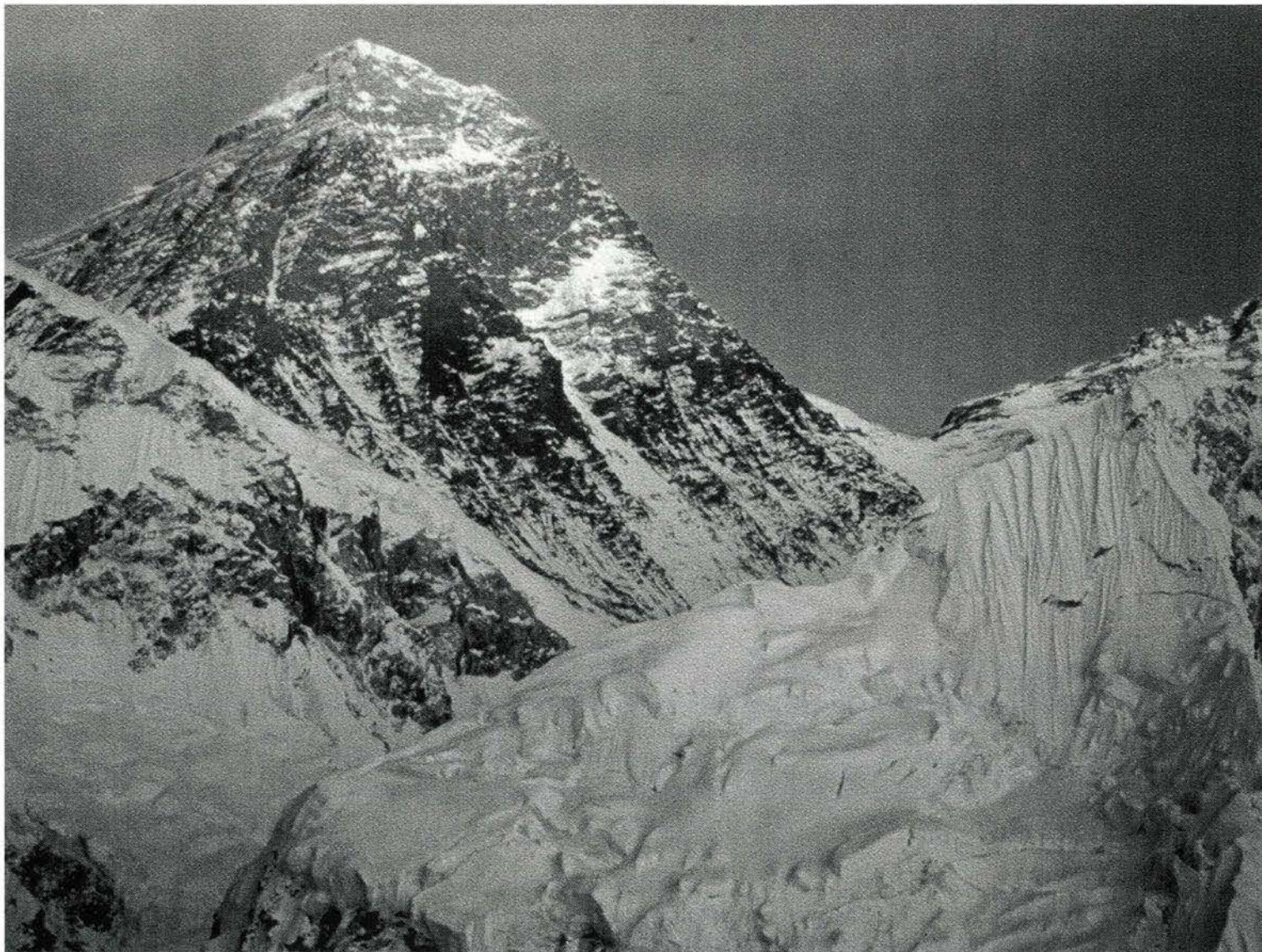
1961(昭和36)年ごろの「山研」。当時は「神河内山荘」と呼ばれていた
"SAN-KEN", the Alpine Research Hut in Kamikochi around 1961



1973(昭和48)年、改築された「山研」
Reconstructed "SAN-KEN" in 1973



1993(平成5)年には地下1階、地上2階に改築され、多くの会員に利用されている
The current building reconstructed to a basement and two-stories in 1993



岩と氷におおわれた世界の最高峰、エベレスト、8848メートルの勇姿。右のスカイラインが、70年日本山岳会のルートとなった東南稜
The highest peak in the world, Mt. Everest (8848 meters). The right skyline showing the South-East Ridge, JAC's climbed route in 1970

日本山岳会のエベレスト The Japanese Alpine Club's Expeditions to Mt. Everest

1956(昭和31)年のマナスル登頂以来、日本山岳会の最大目標はエベレストの登頂であった。具体的な試みは、1969(昭和44)年の春から始まった。春に第1次偵察隊が、秋に第2次偵察隊が派遣された。

翌1970(昭和45)年、本隊の日本山岳会エベレスト登山隊(松方三郎隊長)が、隊員総勢39名で日本を出発した。南壁からの登頂を目指しての挑戦だった。最終局面で南壁は断念し、東南稜からの登頂に切りかえ、5月11日、植村直己、松浦輝夫が日本人初登頂。翌12日、平林克敏と

サーダーのチョクダレが登頂した。

日本山岳会のエベレストへの挑戦は続いた。エベレスト登山史の原点ともいえる北東稜ルートを含む中国・チベット側からの登山を計画し、1980(昭和55)年、チョモランマ(渡辺兵力隊長)登山隊は、5月3日、北東稜より、10日、北壁よりそれぞれ登頂に成功する。

さらに1988(昭和63)年、南側のネパール、北側の中国、そして日本の三国が、5月5日、頂を越えて、無事に交差縦走を成功させた。



ザイルを結び合って急峻な東南稜の雪稜を登攀するアタック隊ら
Climbing steep snow ridge tying with rope



1970 (昭和45) 年 5 月 11 日 9 時 35 分、登頂の第 1 報を知らせる松浦隊員
MATSUURA at the summit on May 11, 1970 at 9:35



人と自然が闘う壮大なドラマが終わった。登山を終え、ベースキャンプで総勢そろって記念写真を撮った
Group photograph of all members at the base camp after success



1965（昭和40）年10月14日、創立60周年記念祝賀会。写真は、挨拶をする松方三郎会長
The 60th anniversary celebration on October 14, 1965

国内外の来賓を迎え、盛大に行なわれた創立60周年の祝賀会
The 60th anniversary celebration with worldwide guests



日本山岳会の周年祝賀会 Anniversary Celebrations

1965（昭和40）年10月、日本山岳会は創立60周年を迎える。10月14日、東京・目白の椿山荘で内外から来賓51名、会員272名という創立以来最大の、しかも国際色豊かな祝賀会が開かれた。翌15日は、虎の門の久保講堂で、松方三郎会長や武田久吉名誉会員の特別講演もあり、聴衆を魅了させた。

1975（昭和50）年12月 6日、創立70周年を迎え、お祝いを合わせた年次晩餐会が東京・新宿の京王プラザホテルで、また創立80周年の記念式典と祝賀晩餐会が、1985（昭和60）年 8月24日、椿山荘で秩父宮妃殿下ご臨席のもと



創立70周年記念号としてマナスル三山をカバーにした、『山岳』
Special edition of "SANGAKU" in 1975 with cover photos of Manaslu

70周年の記念事業として『復刻、日本の山岳名著』が刊行された
The original classic books of alpine literature in Japan, re-printed in 1975



で開催された。80周年では、国際色豊かな内外の来賓多数を迎え、420名の会員が出席。また、「トライビジョン」による映像で、山岳会80周年の回顧と今後百周年に向けての展望が披露された。

創立90周年記念式典、晩餐会、フォーラムは、1995（平成7）年10月14日、東京・新高輪プリンスホテルで開催された。記念式典には皇太子殿下をはじめ国内外からの来賓を含めて757名の会員が出席した。フォーラムは「日本山岳会は百周年に向けて何をなすべきか」をメインテーマに活発に討議された。

社団法人 日本山岳会 創立80周年記念式典



創立80周年記念式典と祝賀会が椿山荘で開催された。写真は挨拶に立つ今西壽雄会長
Toshio IMANISHI, the president of the club at the 80th anniversary celebration on August 24, 1985

80周年記念式典にご臨席された秩父宮妃殿下

Her Highness Princess CHICHIBU in attendance at the 80th anniversary



創立90周年の記念式典で、挨拶する村木潤次郎会長

At the 90th anniversary celebration, Junjiro MURAKI, the president of the club making a speech



記念フォーラム「ヨセミテからのメッセージ」にご出席の皇太子殿下ご夫妻

Their Highnesses the Crown Prince and Princess in attendance at the forum "Message from Yosemite"

当日は、梅棹忠夫、風見武秀、今井喜美子氏ら11人の新名誉会員が紹介された

Eleven of the new honorary member was introduced

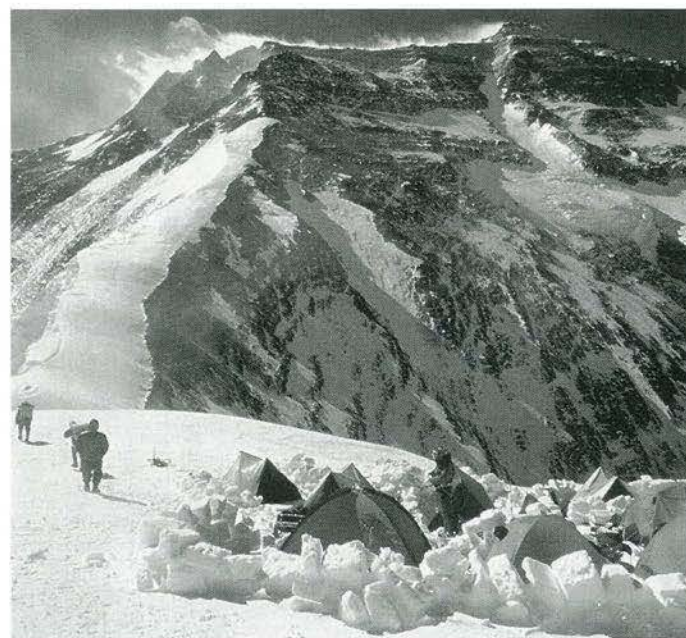




1960 (昭和35) 年 5 月 24 日、慶応大学隊がヒマール・チュリに初登頂した
The first ascent of Himachuli on May 24, 1960 by Keio University Party

1970 (昭和45) 年、マカルー東南稜より初登頂に成功した東海支部隊。海外登山では支部の活躍も目立った
The first ascent of Makalu through the South-East Ridge by Tokai Section of the club in 1970

日印合同登山隊は、1976 (昭和51) 年 6 月 15 日、ナンダ・デヴィ東稜より主峰への初縦走に成功した
The first traverse from the East to the Main Peak of Nanda Devi on June 15, 1976 by India-Japan Joint Party



10年ぶりのチョモランマ登山隊は、1980 (昭和55) 年 5 月 10 日、北壁より登頂に成功した
Ascent of the North-Face of Chomo Lungma by the JAC Party in May 10, 1980

ヒマラヤ登山の実績 Achievements in Himalayan Mountaineering

マナスル初登頂を果たした日本山岳会は、次の目標をヒマール・チュリにおき、1959 (昭和34) 年、北東尾根から登頂を狙ったが、悪天候に阻まれ失敗した。翌年の1960 (昭和35) 年 5 月 24 日、慶応大学隊 (山田二郎隊長) が西面から入山、氷壁にルートを拓き、初登頂に成功した。

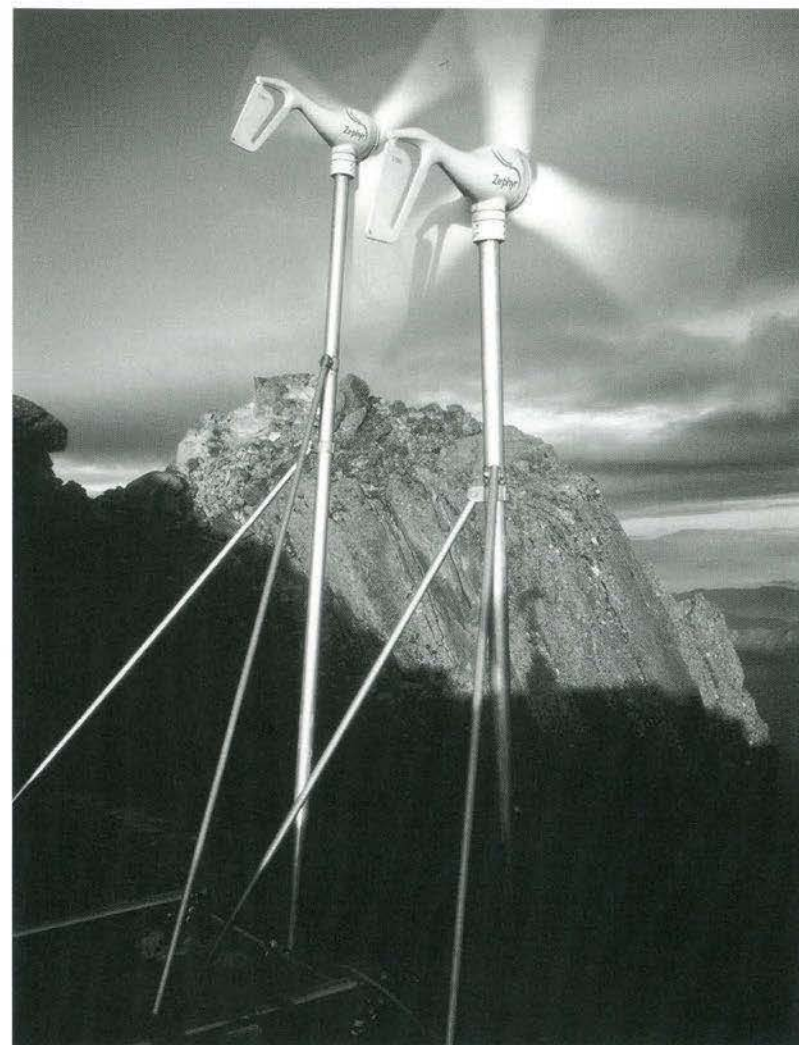
また日本山岳会とインド登山財団の合同登山隊 (鹿野勝彦隊長) が、1976 (昭和51) 年 6 月 15 日、ナンダ・デヴィ東峰より主峰への初縦走に成功した。8000メートル峰の縦走への試みもあった。日本山岳会80周年記

念事業の一環として行なわれたカンチェンジュンガ登山隊 (鹿野勝彦隊長) で、1984 (昭和59) 年 5 月 20 日、南峰から主峰への8000メートル峰の縦走も成功した。

日本山岳会による未踏峰への挑戦もあった。当時、世界最高の未踏峰であるナムチャバルワ (7762メートル) に、1992 (平成4) 年、日本・中国ナムチャバルワ合同隊 (日本側・重廣恒夫隊長) が挑み、10月30日、初登頂に成功した。



マッキンリーの高所に自動観測機器を設置、「風」の実態を解明する科学委員会のメンバーたち
Members of the JAC Committee of Science investigating strong wind at high elevation in Mt. McKinley



山の強風は、風力発電にとって格好な自然エネルギー源である。北穂高小屋のハイブリット発電機
Wind Power Generation at KITA-HOTAKA-KOYA

太陽光を利用したソーラパネルが設置してある穂高岳山荘
Solar Power Generation at HOTAKADAKE-SANSO

自然保護への取り組み Activities in Nature Preservation

日本山岳会は、自然保護への取り組みも積極的に行なっていた。

2000(平成12)年5月、上高地につくった「ミニ水力発電装置」もそのひとつだった。CO₂(二酸化炭素)削減を目的とする石油代替エネルギーとして、自然エネルギー利用の役割は非常に重要となっている。例えば太陽光発電、風力発電、水力発電があり、日本山岳会では神奈川工科大学との共同研究により、とくに発電効率のよい水力発電に注目した。その実験設備を上高地の山岳研究所につくり、自然エネルギー利用につとめている。

自然保護委員会の活動のひとつ「高尾の森づくり」も、2001(平成13)年から始めた長期にわたる森林整備運動で、着実に効果を上げてきた。高尾山のほか、白山山地や猿投の森(愛知県)などでも行なわれている。2004(平成16)年9月には、上高地で自然保護委員会発足40周年、自然保護全国大会が開催され、今後の自然保護のあり方があらゆる視点から討議された。

また「山の自然学研究会」は、山の自然を学び、それを自然保護に生かそうとする同好会で、山でのフィールドワークも盛んである。



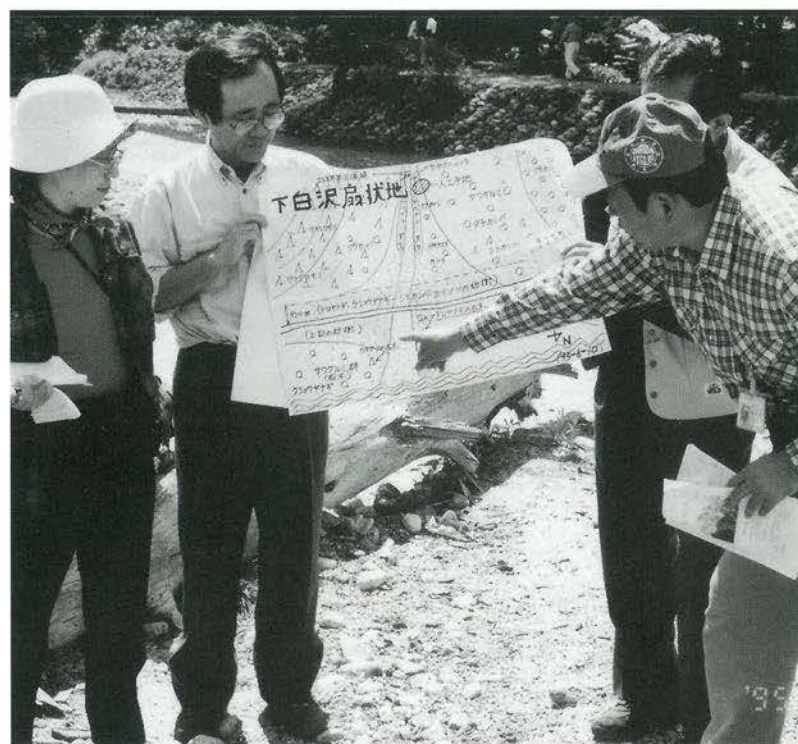
2000 (平成12) 年5月に完工した上高地山岳研究所に隣接する「ミニ水力発電装置」
Miniature Hydroelectric Generation at SANKEN in Kamikochi



自然保護委員会が発足して40周年、2004(平成16)年9月、上高地で自然保護全国大会が開かれた
The 40th anniversary meeting of the JAC Committee of Nature Preservation in 2004



「高尾の森づくり」は、長期にわたる森林整備運動。植林に活躍する自然保護委員と森林ボランティア
Members of the Committee of Nature Preservation at "TAKAO-NO-MORIZUKURI"



上高地周辺の自然形態を調べる「山の自然学研究会」のメンバーたち
Field work by the members of "YAMA-NO-SHIZENGAKU-KENKYUKAI", a nature study group



創立100周年記念事業の一環として行なわれた「中央分水嶺踏査登山」。写真は、中央分水嶺南端の佐多岬で、宮崎支部の会員

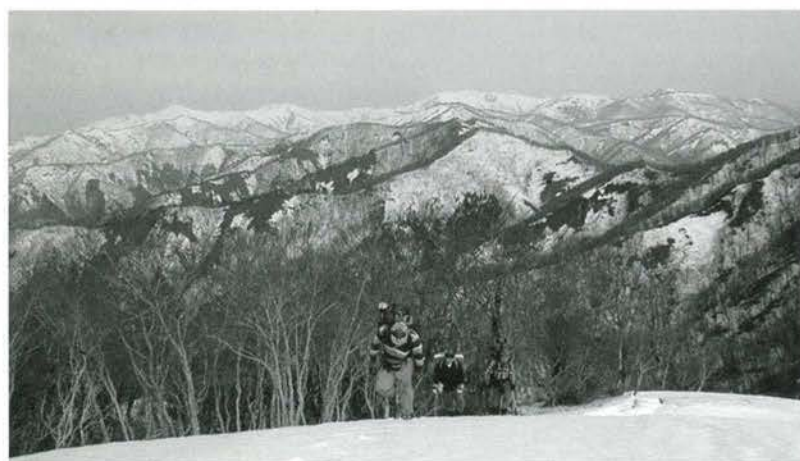
"Whole route survey of the Central Divide in the Japanese island" for one of the 100th anniversary projects. Photo: Members of MIYAZAKI Section at SATA-MISAKI Cape, the south end of the central divide

秋田県の山々を背後に、鬼首から花立峠を踏査する宮城支部の会員

Members of MIYAGI Section going the divide of ONIKOBE to HANADATE Pass

分水嶺最高峰の乗鞍岳頂上で、富山支部の会員

Members of TOYAMA Section on the top of Mt. Norikura



100周年記念行事 Centenary Projects

日本山岳会が100周年を迎える2005（平成17）年、いくつかの記念行事が行なわれている。記念事業の一環として行なわれている「中央分水嶺踏査登山」もそのひとつ。北は宗谷岬から南は佐多岬まで、およそ5000キロ、日本列島の中央分水嶺を25支部の会員と委員会、同好会のメンバーの参加のもとに踏査するというものだ。踏査はGPSによる位置測定、三角点の保存状況を調査するなど、多岐にわたって成果を上げている。

また資料映像委員会では、100周年特別企画として、「語り継ぐ黎明期の

登山——それぞれの山」をテーマに、連続講演会を開催している。往時活躍された諸先輩の話をうかがい、これを記録し、後世の資料として保存しようというものだ。第1回は堀田弥一氏で「山に生きて94年、立山からヒマラヤへ」、第2回は渡辺兵力氏で「山への想い、山に残した足音」、第3回は坂倉登喜子氏で「女が山に登る時、花への思いを馳せて」、第4回は村山雅美氏で「穂高からマナスルへ そして南極へ」。きたる11月には、第5回、松丸秀夫氏の「山行を刻んだ山日記」が予定されている。



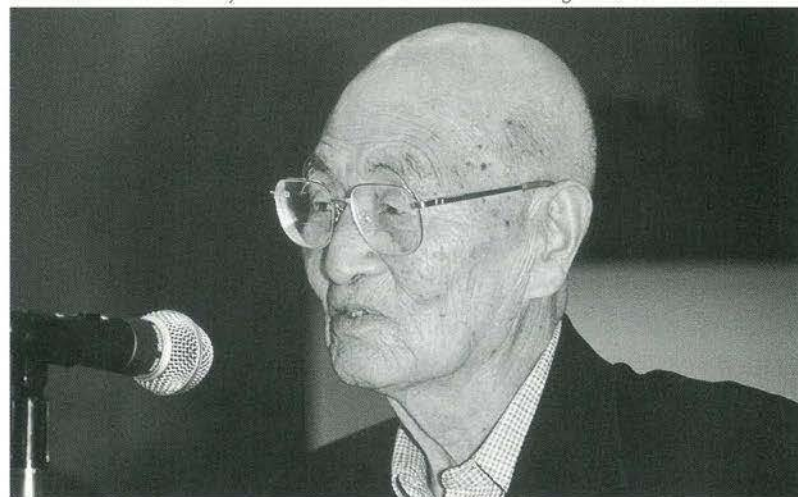
青春を岩と氷にぶつけた山男が、南極の想いを語る村山雅美氏 Mr. Masayoshi MURAYAMA



100周年特別講演会「語り継ぐ黎明期の登山」、100人を越える来場者が熱心に耳を傾けていた
The series of lecture on "My Activities at Dawn of the Mountaineering"



エーデルワイスに魅せられ、山恋いの想い語る坂倉登喜子氏 Ms. Tokiko SAKAKURA



未知のない登山はおもしろくないという堀田弥一氏 Mr. Yaichi HOTTA



山日記が果たした役割を語る予定の松丸秀夫氏 Mr. Hideo MATSUMARU



数々の登山歴と豊かな感性で山と人を語った渡辺兵力氏 Mr. Hyoriki WATANABE

日本山岳会主要年譜

Chronological Table of the History of the JAC

年	記事	YEAR	ARTICLE
1905(明治38)年	10月14日、「山岳会」最初の会合が行なわれた。この日を以て創立日とする	1905	Our Club was founded on October 14, 1905.
1906(※39)年	4月、『山岳』第1年第1号発行	1906	In April, the Japanese Alpine Journal "Sangaku (Mountains)" was first published.
1909(※42)年	6月10日、会の名称を日本山岳会とし、会員章制定する	1909	The Club's name was decided as the Japanese Alpine Club, and created also the membership badge.
1910(※43)年	3月、ウォルター・ウェストン師を名誉会員に推挙。『高山深谷』第1輯を発行	1910	In March, Walter Weston was nominated as an honorary member.
1921(大正10)年	9月、横有恒アイガー東山稜初登攀	1921	Yuko Maki succeeded in the first ascent of the East-ridge of Eiger.
1925(※14)年	7月、横有恒らアルバータ峰初登頂	1925	Yuko Maki and other members made the first ascent of Mt. Alberta via the East-face.
1926(※15)年	8月から9月、秩父宮殿下、スイスアルプス10数峰を登る	1926	Prince Chichibu climbed more than 10 peaks in the Swiss Alps.
1928(昭和3)年	秩父宮殿下、英国山岳会名誉会員に推挙される	1928	Prince Chichibu was nominated as a honorary member of the Alpine Club.
1929(※4)年	虎の門不二家ビルに図書室兼集会室を開設	1929	The club library was inaugurated at Fujiya Bldg. Toranomom, Tokyo.
1930(※5)年	『山日記』(6月)、『会報』(10月)を創刊	1930	An alpine diary "Yama Nikki" was first published. A monthly newsletter "Yama" started in succession.
1931(※6)年	規則を会則に変更し、会長・理事制となる。初代会長に小島久太就任	1931	Rules and Regulations were revised. The president and board of directors was prepared.
1933(※8)年	12月、高頭仁兵衛、会長に就任	1933	In December, Nihei Takato was elected president.
1935(※10)年	創立30周年記念事業(記念講演会、山岳図書展覧会等)を実施 12月、木暮理太郎、会長に就任	1935	The 30th anniversary was celebrated. In December, Ritaro Kogure was elected president.
1936(※11)年	10月、堀田弥一ら立教大学隊、ナンダ・コートに登頂	1936	Rikkyo Univ. A.C. led by Yaichi Hotta made the first ascent of Nanda Kot in October.
1937(※12)年	8月、上高地にウェストンのレリーフを設置	1937	In August, the bust of Walter Weston was unveiled in Kamikochi.
1941(※16)年	1月、社団法人認可	1941	In January, the club became an incorporated body (non-profit organization).
1944(※19)年	5月7日、木暮会長の急逝に伴い、横副会長が会長を代行	1944	Ritaro Kogure suddenly passed away, then Yuko Maki took over his position temporarily.
1945(※20)年	5月25日、虎の門のルーム空襲により焼失 12月、戦後初の役員総会(会員総会に代えて)を開き、山岳会の復興を申し合はす	1945	Air-raid on May 25 destroyed the club room. As World War II ended, the club activities resumed in December.
1946(※21)年	6月1日、会員総会にて松方三郎を会長に推薦 12月28日、臨時総会を開催。定款を改正して、社団法人日本体育協会傘下の加盟団体となると共に、全国各地に支部を設ける	1946	In June, Saburo Matsukata was elected president. In December, the Rules and Regulations were amended in order to enable the club to be a member of the Japan Amateur Sports Association.
1947(※22)年	6月、上高地ウェストン記念碑レリーフを復旧、第1回ウェストン祭を行なう 10月、第2回国民体育大会(石川)行事に参加(日本登山協会と合体して参加)	1947	In June, the first Weston Festival was held. In October, the club joined the 2nd National Sports Festival in Ishikawa Pref.
1948(※23)年	4月、武田久吉、会長に就任	1948	Hisayoshi Takeda was elected president.
1949(※24)年	3月、お茶の水の岸体育館敷地内にルーム新設	1949	In March, the new club house was built in the compound of Kishi Sports Memorial Hall.
1950(※25)年	4月、秩父宮殿下ほか7名、名誉会員に推挙	1950	Prince Chichibu and seven members were nominated as honorary members.
1951(※26)年	4月、横有恒、会長に就任	1951	Yuko Maki was elected president.
1952(※27)年	8月～11月、マナスル踏査隊(今西錦司隊長)を派遣	1952	Manaslu was reconnoitered by Dr. Kinji Imanishi's party from August to November.
1953(※28)年	3月～6月、第1次マナスル登山隊(三田幸夫隊長)7750mに達す	1953	A climbing party to Manaslu led by Yukio Mita reached the point at 7750m on June 1.
1954(※29)年	2月～6月、第2次マナスル登山隊(堀田弥一隊長)を派遣	1954	Yaichi Hotta's party again attempted on Manaslu, but was not successful.
1955(※30)年	5月、別宮貞俊、会長に就任	1955	In May, Sadatoshi Bekku was elected president.
1956(※31)年	2月～6月、第3次マナスル登山隊(横有恒隊長)、5月9日初登頂に成功	1956	The 3rd expedition party led by Yuko Maki made the first ascent of Manaslu on May 9.
1958(※33)年	10月、別宮会長の急逝に伴い、日高信六郎、会長に就任	1958	Due to sudden death of Sadatoshi Bekku, Shinrokuro Hidaka was elected president.
1959(※34)年	2月～6月、ヒマール・チュリ登山隊(村木潤次郎隊長)派遣	1959	The JAC Expedition to Himalchuli led by Junjiro Muraki reached the point at 7400m.
1960(※35)年	5月、本会と全日本岳連と2本の柱で日本山岳協会(武田久吉会長)を設立し、体協加盟団体となる	1960	The Japan Mountaineering Association (JMA) was established in cooperation with All Japan Mountaineering Federation (JMF). Hisayoshi Takeda was appointed to be president.
1961(※36)年	10月、上高地に山岳研究所「神河内山荘」として開設	1961	The club hut "Kamikochi Sanso" was opened at Kamikochi
1962(※37)年	4月、松方三郎、会長に就任	1962	Saburo Matsukata was elected president.
1964(※39)年	7月、岸体育館の移転に伴い、本会ルームは渋谷区神宮前の外苑コーポに移転	1964	The club room was moved to Gaien - Corp, Jingumae, Shibuya, Tokyo.
1965(※40)年	10月、創立60周年記念行事を実施(式典・祝賀パーティ・記念講演会・記念山行)	1965	In October, the 60th anniversary was celebrated at Chinzanso, Tokyo.
1966(※41)年	2月、東海支部アンデス学術遠征隊、アコンカグア南壁登頂 6月、創立60周年記念展覧会開催	1966	Tokai Section Andes expedition team climbed Aconcagua via South-face route. The 60th Anniversary Exhibition held in June.
1967(※42)年	6月、本会ルーム、神田錦町の向井ビルに移転 10月、UIAAの加盟団体となる	1967	In June, The club room was moved to Mukai Bldg, Kanda, Tokyo. In October, the Club became a member of the U.I.A.A.
1968(※43)年	4月、三田幸夫、会長に就任	1968	In April, Yukio Mita was elected president.
1969(※44)年	4月～5月、第一次エベレスト偵察隊(藤田佳宏隊長)クーンブ氷河偵察 9月～10月、第二次偵察隊(宮下秀樹隊長)南西壁8000mラインに到達	1969	JAC Everest Reconnaissance party led by Hideki Miyashita reached 8000m at the South-west face of Mt. Everest.
1970(※45)年	2月～6月、エベレスト登山隊(松方三郎隊長)、5月11日、エベレスト登頂に成功 5月23日、東海支部隊(原真隊長)、マカルー東南稜より登頂	1970	JAC Expedition party led by Saburo Matsukata made the ascent of Everest on May 11. An another JAC-Tokai expedition succeeded to the Makalu via South-east ridge.

年	記事	YEAR	ARTICLE
1973(㉔ 48)年	4月、今西錦司、会長に就任 5月、本会ルーム、文京区湯島のさくらビルへ移転	1973	Dr. Kinji Imanishi was elected president. In May, the club room was moved to Sakura Bldg., Yushima, Tokyo.
1975(㉔ 50)年	10月、創立70周年記念行事(記念講演会、『覆刻日本の山岳名著』の刊行)	1975	The 70th Anniversary Celebration was held on October 14.
1976(㉔ 51)年	6月15日、ナンダ・デヴィ(鹿野勝彦隊長)縦走に成功	1976	A traverse of Nanda Devi was succeeded on June 13-15, by Indo-Japan joint team.
1977(㉔ 52)年	4月、西堀栄三郎、会長に就任	1977	Dr. Eizabro Nishibori was elected president.
1978(㉔ 53)年	1月、本会ルーム、サンビューハイツ四番町に移転	1978	The club room was moved to the Sun View Heights, Yonbancho, Tokyo.
1979(㉔ 54)年	10月、チョモランマ偵察隊(斎藤惇生隊長)派遣	1979	A Reconnaissance party to Chomolangma led by Dr. Atsuo Saito was sent.
1980(㉔ 55)年	5月3日北東稜より、10日北壁より、チョモランマ(渡辺兵力隊長)登頂	1980	Chomolangma Expedition party led by Hyoriki Watanabe was climbed via north-east ridge on May 3, and north face on May 10 respectively.
1981(㉔ 56)年	5月、佐々保雄、会長に就任	1981	In May, Dr. Yasuo Sasa, was elected president.
1984(㉔ 59)年	5月20日、カンチェンジュンガ登山隊(鹿野勝彦隊長)、南峰から主峰への縦走に成功	1984	The JAC party led by Katsuhiko Kano was successful in traversing from South peak to Main peak of Kangchenjunga.
1985(㉔ 60)年	5月、今西壽雄、会長に就任 8月、創立80周年記念行事(式典、晩餐会、海外登山、展覧会を開催)	1985	Toshio Imanishi was elected president. The 80th Anniversary was celebrated.
1988(㉔ 63)年	5月5日、チョモランマ/サガルマタ日本・中国・ネパール三国友好登山隊(日本側・今西壽雄総隊長)交差縦走に成功	1988	China, Japan, Nepal Friendship expedition made the first cross traversing on Chomolangma / Sagarmatha.
1989(平成元)年	5月17日、横有恒元会長 日本山岳会葬 5月、山田二郎、会長に就任 9月、チョモランマ三国友好登山隊の剰余金を基に、海外登山基金を設立	1989	Yuko Maki passed away, and the club's funeral service was held on May 17. In May, Jiro Yamada was elected president. In September, the JAC Expedition Fund was founded.
1990(㉔ 2)年	11月、ナムチャバルワ峰偵察隊(重広恒夫隊長)派遣	1990	A reconnaissance party to Namcha Barwa led by Shigehiro was dispatched.
1991(㉔ 3)年	10月、ナムチャバルワ第1次登山隊7460mに到達	1991	First Namcha Barwa Expedition led by Tsuneo Shigehiro reached the point of 7460m.
1992(㉔ 4)年	10月30日、ナムチャバルワ峰日中合同登山隊(日本側 総隊長・山田二郎 隊長・重広恒夫)、ナイブン峰経由により初登頂	1992	The Japan-China Joint Expedition made the first ascent of Namcha Barwa on Oct. 30.
1993(㉔ 5)年	4月、上高地山岳研究所改築 5月、藤平正夫、会長に就任 7月22日、東海支部登山隊(徳島和男隊長)、中国の皇冠峰初登頂	1993	In April, Kamikochi Sanken (Alpine research hut) was reconstructed. In May, Masao Fujihira was elected president. Tokai Section's Expedition led by Kazuo Tokushima, made the first ascent of Mt. Crown, China on July 22-29.
1995(㉔ 7)年	5月、村木潤次郎、会長に就任 5月21・22日、マカルー登山隊(重広恒夫隊長)、東稜より登頂	1995	Junjiro Muraki was elected president. The JAC party led by Tsuneo Shigehiro made the ascent of Makalu via East ridge on May 21 & 22.
1996(㉔ 8)年	10月14日、創立90周年記念行事 7月11日、ウルタルII峰(7388m)に東海支部隊(山崎彰人隊長)登頂 8月12・14日、K2南々東リブより登頂(青年部 山本 篤隊長)	1996	The 90th Anniversary celebration was held in October 14. An expedition of Tokai Section led by Akira Yamazaki made the first ascent of Ultau II. JAC Youth Group Expedition led by Atsushi Yamamoto, made the ascent of K2 on August 12&14.
1997(㉔ 9)年	5月、斎藤惇生、会長に就任 7月19日、東海支部K2学術登山隊(田邊治隊長)、西壁から西稜経由の新ルートで登頂	1997	Dr. Atsuo Saito was elected President. The JAC Tokai section's expedition led by Osamu Tanabe made the ascent of K2 via new route (West face-West ridge).
1998(㉔ 10)年	5月15日、カンチェンジュンガ(8586m)北面より無酸素登頂(青年部 谷川太郎隊長) 12月、「秩父宮記念山岳賞」を制定、年次晩餐会において第1回授賞式を行なう	1998	The JAC Youth Group Expedition led by Taro Tanigawa made the ascent of Kangchenjunga via North face on May 15. The first presentation ceremony of the Prince Chichibu Memorial Mountaineering Award was held on December 5.
1999(㉔ 11)年	5月、大塚博美、会長に就任	1999	In May, Hiroyoshi Otsuka was elected president.
2000(㉔ 12)年	5月、上高地山岳研究所「ミニ水力発電装置」完工	2000	Small scale Hydro Electric Power Generation at Kamikochi Sanken was completed.
2002(㉔ 14)年	5月～7月、日印合同東カラコルム踏査隊(坂井広志隊長)、パドマナブ峰(7030m)初登頂	2002	Indian-Japanese East Karakorum Expedition Party led by Harish Kapadia and Hiroshi Sakai made the first ascent of Padmanabh on June 25.
2003(㉔ 15)年	5月、平山善吉、会長に就任 12月18日、東海支部の冬季ローツェ南壁隊(田邊治隊長)、8250mに到達	2003	In May, Zenkichi Hirayama was elected president. The JAC Tokai Section Lhotse Winter Expedition led by Osamu Tanabe, reached to a point of 8250m on December 15.
2004(㉔ 16)年	100周年記念事業として、①25の支部参加による、「日本列島中央分水嶺」5000kmの踏査を実施。②7～10月、関西支部ヤルツァンが源流域の登山と河口・慧海が1900年、チベットへ入域したルートを踏査。③学生部ムスタン登山隊、未踏のチブ・ヒマール、サリブン峰を登頂	2004	【Centenary Project】①Entire route survey of the Central Divide in the Japanese island was traced by 25 section of the JAC. (Total length 5000km) ②JAC Kansai Section Western Tibet Expedition was climbed Mt. Pachyung Ham etc. Another survey group traced the Ekai Kawaguchi enter route into Tibet. ③JAC Student Group made the ascent of Chhiv Himal and Saribung.

編集後記

本冊子は、あくまで日本山岳会を核とした写真を中心に、100年の歴史を語るもので、単なる写真集ではありません。また登山史の年表でもありません。本来、歴史とは編年体を基本とするものですが、構成上、テーマを絞るため時代が前後していますのでご了承下さい。

記載順位は、会の年譜を基本として、まず、それぞれの時代の登山や行事の写真を収集、実写し、それらを取捨選択したものをテーマ別にまとめました。また写真をフォローする意味で、テーマごとに解説を付記しておきました。

収録した写真は、山岳会が所蔵している創立当時のものを含めて、できるだけ目新しい写真を発掘したつもりですが、中にはすでに目に触れたものも少なくありません。しかし、それらは、会の歴史を知るためには欠かせない写真であり、今となってみれば貴重な資料映像ばかりです。

1970年代以降は、会員による海外登山が年ごとに盛んになりましたが、遺憾ながらそれらのすべてを列挙することはできません。ここでは、代表的な登山や行事にとどめさせていただきました。そして、撮られた写真の1枚1枚から日本山岳会100年の歴史を紐解き、伝統のもつ原点を探っていただければ幸いです。

本冊子をまとめるにあたり「百年史委員会」の皆様から数々のご示唆をいただき、併せて貴重な写真を提供して下さいました。関係各位に厚くお礼申し上げます。

2005（平成17）年10月15日

資料映像委員長 羽田栄治



デジタル版公開に伴い、冊子版の一部文言、氏名、年月日などを修正した。

(2020.11.18)

収録写真は、本会所蔵の写真のほか、毎日新聞社、読売新聞社をはじめとする多くの方々のご協力をいただきました。感謝して厚くお礼申し上げます。

『写真で見る日本山岳会の100年』

発行日 2005年10月15日
編者 日本山岳会資料映像委員会
デザイン 小泉 弘デザイン事務所
発行者 平山善吉
発行所 社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
印刷所 大日本印刷株式会社

非売品

掲載記事及び写真の無断転載禁ずる